

ニュース・ウィーク 3月1日

核を諦めない北朝鮮の真意は中国の歴史に学べ

60年代に原爆実験に踏み切った中国と今の北朝鮮には重要な共通点がある

謝韜（シエ・タオ） 北京外国語大学教授

年始から4度目の「核実験」を実施し、今月は事実上の弾道ミサイル実験を行った北朝鮮。中国政府との「兄弟分のような関係」を考えれば、恩をあだで返したと激怒している中国人が多いのも納得できる。

国連から厳しい制裁を科され、アメリカと中国からも強く反対されているにもかかわらず、なぜ北朝鮮は核開発を推進するのか。北朝鮮の思考回路を理解するには、その核開発計画を歴史的な文脈で他国と比較すると分かりやすい。比較対象として最適なのは中国だ。核開発への野心を追求してきた両国には共通点が多い。

中国が初めて原爆実験を実施したのは1964年10月16日。6日後、人民日報は第1面の社説で以下のように報じた。

ジョンソン（米大統領）は、核兵器保有は中国の人民にとって「悲劇」だと述べたそう。なぜなら中国の「限られた資源」が「人民の暮らしを豊かにする」ためではなく核兵器の開発に使われたのだから、と。

ジョンソンは、極貧の中国には核兵器を開発する能力はないと言いたいらしい。帝国主義者は常に人民の力を過小評価する。……中国初の原爆が悲劇だとしたら、それはアメリカ帝国主義にとっての悲劇だ。核の脅威で中国人民を操ろうとする夢が破れ、核の独占という特権が揺らいでいるのだから。

ジョンソン大統領、実を言うと中国には原爆よりもっと強力なものがある。それは、毛沢東の揺るぎない思想、共産党の偉大で的確な指導力、6億5000万人の人民の結束力と意識の高さ、優れた社会主義体制だ。……本質的に好戦的なアメリカが、核兵器を保有して平和な国になったというなら、平和を愛する社会主義国の中国が人類にとって災いとなるはずがない。

【悔ってはならない愛国心】この表現は、当時の中国政府指導部の考えを読み解くヒントとなる。この頃の中国は現在の北朝鮮と同じくらい貧窮化していた。「大躍進」政策は、その後さらに悲惨な結果をもたらしたただけだったが、中国政府は核兵器開発に莫大な資源を投じる道を選んだ。その目的は、「アメリカの帝国主義者の思いどおりにはさせない」ことだったと思われる。

現在、北朝鮮とアメリカの両政府が対立し、アメリカが北朝鮮の核開発に断固として反対していることを踏まえると、前述した人民日報の社説は、北朝鮮の指導部が最近発表した声明と考えてもまったく違和感はない。

もう1つ、60年代の中国と現在の北朝鮮との大きな共通点がある。ソ連は中国にとって最大の同盟国だったが、今の北朝鮮にとって最大の同盟国は中国だ。しかし、中国はソ連、そして北朝鮮は中国という「兄貴分」の核の傘に入る代わりに自力で核開発を追求する道を選んだ。

中国と北朝鮮を歴史的にざっと比較して得られる教訓は何か。まず、北朝鮮の核兵器開発に対する並々ならぬ決意と能力を悔ってはならないということだ。確かに資源は限られているかもしれないが、国家としての誇り、イデオロギーに対する熱意、金正恩第1書記を英雄視する気持ちには底知れないものがある。また、イデオロギーとしての共産主義には共産主義国同士を結び付ける力があるが、愛国主義はその力を凌駕する。

中国は、北朝鮮を獅子身中の虫として非難する代わりに、なぜかつての同盟国がこうした行動に出るのか、同国の非核化を進めるにはどうすればいいのかを考えるほうがいい。まだ間に合うとしたら話だが。